

## 令和元年度 芦屋市地域発信型ネットワーク取組状況

## 小地域福祉ブロック会議 拡大事務局会議

構成員：民生委員ブロック長・福祉推進委員代表・自治会長・高齢者生活支援センター・  
地域支え合い推進員・地域福祉課・社会福祉協議会

開催日程	地 区	内 容
5月29日(水)	浜風地区	自治会長と事務局の話し合いの中で、昨年度作成した「社会資源マップ」を具体的に“まちあるき”や“防災”につなげていきたいという意向を確認し、小地域福祉ブロック会議で具体的な案を出していければという内容で話し合いを行った。
7月2日(火)	浜風地区	地区内の自治会長、民生委員等のリーダー4名で、昨年度の「社会資源マップ」を元に、今年度の取組内容について話し合いを行った。
9月11日(水)	精道地区	昨年度の防災に関するグループワークを振り返りながら、今年度は話し合ったことを具体的な内容につなげていけばどうかという事務局案を投げかけた。地域が考えている防災についての認識を聞くことができた。
9月17日(火)	朝日ヶ丘地区	地区福祉委員会で意見交換した“ <u>「認知症当事者の喫茶店」を地域で実現したい</u> ”という意見を取り上げて、具体的にどう進めていくかという話し合いを行った。今年度は、地域の自治会長、民生委員を中心に話し合いを進めていくこととした。

## 小地域福祉ブロック会議

構成員：各町民生委員・各町福祉推進委員・自治会・老人会・子ども会・コミスク・  
高齢者生活支援センター・地域支え合い推進員・市役所関係課・社会福祉協議会

開催日程	地 区	テーマ	内 容
7月11日(木)	浜風地区	「社会資源マップ」を活用した取組について	浜風地区3町に分かれて、「社会資源マップ」の活用について具体的取組案をグループワークで考えた。その中で、“ <u>コミュニティスクールでまちあるきを試してみる</u> ”という意見や地図上に乗っている“ <u>新しくできた施設を見学してみたい</u> ”という意見が出た。
11月24日(日) (予定)	精道地区	ワークショップ「逃げ地図」	明石工業高等専門学校の協力を得て、精道小学校区の各町単位で「逃げ地図」に取り組む。津波・浸水を想定しての「逃げ地図」で、 <u>住民の同士の気づきと活動への機運へつなげたい</u> 。

## 地区福祉委員会

構成員：各町民生委員・各町福祉推進委員

開催日程	地 区	内 容
7月26日(金)	朝日ヶ丘地区	小地域福祉ブロック会議で取り上げたい課題について意見交換したところ、“ <u>認知症当事者の喫茶店</u> ”について取り組みたいという意見が上がった。
7月27日(土)	打出浜地区	昨今の災害を意識する民生委員が多く、防災をテーマに取り上げていきたいという意見が上がった。
9月25日(水)	岩園地区	小地域福祉ブロック会議に対する意見として、毎年やっていることがつながっていないということから、まちづくりに関するビジョンを策定して3年くらい時間をかけて取り組んでいきたいという意見があった。また、要援護者の方々にアンケートを取って、その内容を元に自治会へ働き掛けたいという意見も上がった。

## 地域ケアシステム検討委員会

地域ケアシステム検討委員会では、平成30年度第2回地域福祉推進協議会(平成31年3月25日(月)実施)で藤井会長から指摘いただいた以下の5つの事項を意識しながら、会議運営を行ってまいりました。

1. 要因分析が不十分である。
2. 少々の制度の狭間の問題でも受け入れる体制を取れるのか。
3. 発見から対応までどうつなぐのか、個人情報や支援形態を話さないと突破できない。地域ケアシステム検討委員会の中で合意形成を取っていかないといけない。
4. 発見については交流の中からつぶやきを拾っていく、地域の身近なところで発見して知らせてもらいフィードバックのルートをどうしていくかという手順を明確に示す。
5. 全世代型となっているひきこもりの問題を自立相談支援がどこまで踏み込んで支援をしているのかを確認すること。全世代のライフステージの中で自立相談支援の位置づけを明確にし、各年齢層のプライマリーケアについて検討すること。

開催日程	議 題	内 容
5月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度方向性について</li> <li>・生活困窮自立相談からの複合多問題の事例検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立相談の典型事例として、複合多問題事例の各関係機関のかかわり方、支援について検討し、連携課題について整理した。</li> </ul>
6月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮自立相談の現状と課題</li> <li>・身近であった生活困窮事例に該当する相談について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立相談担当から窓口の現状と課題の報告</li> <li>・前回用いた事例から、身近な相談で、社会的孤立やひきこもり、8050といった生活困窮に関わる内容で知っていることを出し合う。</li> </ul>
7月17日	学校教育課	ヒアリング
7月23日	子育て推進課	ヒアリング
7月30日	障害福祉課	ヒアリング
7月31日	高齢介護課	ヒアリング
8月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮事例のジェノグラムを用いた関係機関との連携について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮事例に関わる関係機関の課題を検討しながら、連携課題を再整理する。</li> </ul>
10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携課題の取組について合意形成を図り、具体的取組内容を検討</li> </ul>	<p>具体的取組についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョイントシートや気づきシートを生活困窮や庁内連携だけでなく、地域包括支援センターや権利擁護支援センター、障がい相談、家庭児童相談室等の支援機関や医療機関にも活用できるようにしていく。</li> <li>・気づきの項目を入れたアセスメントシートにする。</li> <li>・生活困窮につなぐチェックシートにする。</li> <li>・行き詰ったケースを相談できる先を作る。「支援チーム」の確立。</li> <li>・複合問題や世帯全体をマネジメントができるようにする。</li> <li>・分析やフォローアップのしくみづくりにつなげる。</li> <li>・支援チームにつなぐためのスクリーニングが必要。</li> <li>・支援チームづくりのイメージ、基準について検討。</li> <li>・メンバー構成を検討。</li> </ul>